

平成 17 年度調査・研究事業

郡山市湖南地域振興計画策定調査<<福島県>>

【概要】

郡山市湖南地区は、郡山の中で最も人口密度が低く、産業別就業人口も第一次産業への就業割合が他の地域に比べ高い。また、生産年齢人口の割合も最も低く、少子高齢化の影響による地域人口の減少等を起因とした地域活力の減退が、同地区において緊急に対応を要する問題となっていることから、地域内の資源を有効に活かした地域振興計画の策定が課題となっている。

本事業においては、同地区の現状と課題を詳細に把握し、豊富な農林水産物を中心とした地域産業資源、猪苗代湖に面し磐梯山を望み見る地理的環境等の景観を活かした観光資源、これら産業に携わる地域間交流・連携による人的ネットワーク資源を生かし、郡山市湖南町の地域活性化を図るため地域振興計画を策定した。

さらには、同地区内に建設整備される風力発電施設(平成 18 年運転開始)を景観資源の一部として、他の地域資源と有機的、包括的に組み合わせることにより、新たな人の流れを生み出す提案づくりを行った。

【対象市町村、モデル地域等】

福島県郡山市湖南地区

【調査年度】

平成 17 年度

【提案・要請者】

福島県郡山市

【提言内容・その後の活動等】

湖南地域の内部環境(強みと弱み)・外部環境(機会と脅威)を詳細に分析した結果、十分に活かされていない地域資源が多数存在することや、地域内の組織力が不足している等の諸課題が浮き彫りとなった。

そこで、本振興計画においては、地域内組織の連携と調和、および都市部との交流を目指すこととし、コアコンセプトとして「“湖南再発見”風と大地と湖に育まれた『おいしい空間』の共有」を掲げ、具体的なまちおこし施策と展開スケジュールを提案した。

具体的なまちおこし施策として4つの視点により整理し、具体的な内容を導き出した。

視点①最大の市場機会(攻勢)

「地元産品の提供の機会、場の創造」「アンテナショップ的な場所の確保」「団塊シニア世代への情報発信」等

視点②最大の脅威(専守防衛)

「地元活動参加意識の醸成を図り、組織体制の基礎づくり」「伝統的な食文化の見直しと食べる習慣づくり」等

視点③段階的施策

「まちづくり拠点の継続検討」「地域資源の質的向上と生産基盤の強化」「地域内組織の連携強化と都市部組織との連携」等

視点④差別化戦略

「自然・水環境の保全に努め、観光客の誘客推進」「風力発電施設を含めた眺望豊かな布引高原を積極的にPR」等

【成果品】

報告書

【調査体制】

委員会

【委員長・座長】

末吉 健治 福島大学経済経営学類助教授

【事務局】(MICTは除く)

菅野 寿一 郡山市農林部農政課農政企画係技査

【調査協力機関】

(株)ふくしま自治研修センターシンクタンクふくしま

【視察先・ヒアリング先など】

栃木県上都賀地方

【委員等】(分科会等は除く)

大山 孝 湖南地域総合振興促進協議会長

佐藤 健次 郡山市観光協会湖南支部長

小山 一栄 郡山市農業協同組合湖南東総合支店長

鈴木 吉雄 郡山市農林部参事

角田 武彦 郡山市商工労政部次長

渡辺 弥重 郡山市湖南行政センター所長

高梨 公 福島県中農林事務所地域農林企画室長

【区分】

電源地域振興指導事業